



VOICE

救急から高度医療まで 地域で働く医師を知る

小林 礼佳 (2年・大阪府・学士編入)

急性期から高度医療、へき地医療まで見学できました。特に遠隔診療が印象に残りました。遠隔診療の最新機器や病院までの移動難というへき地の実態を知れたことで、地域医療に従事するイメージを具体的に想像できました。また、病院経営の観点からも地域医療の課題について考えるきっかけになりました。

どうしてその実習先を選びましたか？

「一貫した医療」を見るために

急性期から高度医療、へき地医療まで見学でき、訪問診療にも同行できるからです。前職は訪問看護ステーションで働く作業療法士だったので、立場を変えて在宅現場を見たいと思いました。結果的に訪問診療は見学できませんでしたが、遠隔診療などへき地医療を経験することができました。最終的には地域で働く医師を目指しているのので、今後どのようなことを課題にし、勉強に邁進すれば良いのか明確にしたいと思い実習に臨みました。

実習先の良かったところは？

学生の知識量に合わせた実習

先生方が学生のレベルに合わせて優しく丁寧に教えてくださったことや、実際に手技を間近で見学させてもらえたり、機械を操作させてもらったことが良かったです。エコーや心電図、CT画像も何十枚と見させていただき、何度も読影方法を教えていただきました。見学したのは第一内科でしたが、総合内科的に様々な疾患を見ることができました。また、院長をはじめ病院のスタッフの雰囲気良く、いろんなスタッフに気軽に質問できました。ご飯を3食提供していただいたことも私にとっては良かったポイントでした！

実習の流れ

野辺地病院の実習スケジュール

総合診療・地域医療実習

午前

回診・手術見学

- 外来見学
- 腹部エコー検査見学・エコー体験
- 内視鏡胃カメラ検査見学・内視鏡操作体験
- 内視鏡大腸検査・ポリープ切除見学

内視鏡胃カメラを試用させてもらいました。左手でのコントロールが難しかったです。



ムンテラで心肺停止時の方針を話し合っていた場面が印象に残りました。寝たがりの患者の病状説明を患者家族にされていた時、先生は説明の中で心肺停止時の延命処置について意向を聞いておられました。

午後

学習・入院の立ち会い

- 遠隔診療の見学
- 病棟回診見学
- 医師同士のカンファレンス
- 看護師とのカンファレンス
- ムンテラの見学 (インフォームドコンセント)

遠隔診療は病院の医師と現地の住人とのオンラインツールをつないだ診療のことです。看護師とドライバーさんが現地に向かうので、それに同行しました。遠隔診療によって住民の医療へのアクセスが簡単になることを実感しました。



Q & A

実習参加者の声

Q1. どのような医師になりたいですか？

作業療法士の視点は忘れずに、その経験を踏まえて地域で働く医師を目指したいと思っています。

Q2. 最初に立てた目標は？

医師の視点から地域医療を考えられるように、野辺地病院の先生方から教われたらと思っていました。具体的には医師の立場での他職種連携や患者との関わり方、また、地域住民の特性や地域の課題を学ぶことが目標でした。

Q3. 野辺地病院までのアクセスは？

弘前駅～野辺地駅を電車で2時間、野辺地駅～野辺地病院を車で5分でした。野辺地駅と野辺地病院の間は病院のスタッフの方が車で送迎してくださいました。

Q4. 実習に向けて準備したことは？

特にありませんでした。できる限り自分なりの実習の目的を明確にしておく、情報収集しやすいと思えますし、有意義な実習期間になると思います。

Q5. 宿泊場所はどんなところ？

病院内の研修室に宿泊しました。アメニティがないので、持参が必要です。個人的には、スリッパを持参すればよかったと思いました。もしアメニティを買い忘れても、病院の裏にホームセンターやドラッグストア、しまむらがあるので、調達できます。

Q6. 食事はどうしましたか？

3食病院食を無料で提供してくださいました。栄養バランスがよく、しっかりと食事が取れました。



Q8. 持ち物は？

白衣（ケーシー）、メモ帳、筆記用具、名札、上履きを持参しました。

Q9. 衣類以外の持ち物は？

バスタオル、タオル、ドライヤー、スリッパ、アメニティ類を持参しました。

